



『ふたりはともだち』

アーノルド・ローベル／作 三木 卓／訳
文化出版局

かえるくんとがまくん、ふたりの愉快なやりとりが楽しい物語が5話収められています。どのおはなしからもうかがえる、かえるくんとがまくんの心が通じ合った親友ぶりはうらやましいほど。“友だちがいるって本当にいいな”と感じさせてくれます。



『ぼくがラーメンたべてるとき』

長谷川義史／作・絵
教育画劇

ぼくがラーメンたべてるとき、となりのミケがあくびした。そしてその同じ空の下で、遠く離れた国では何が起きているのだろうか…。少ない文章と挿絵の中で、平和へのメッセージが伝わってきます。



『ぼくのかわいくないもうと』

浜田桂子／作・絵
ポプラ社

僕には妹がいる。でも、ちっともかわいくなんかない。おしゃべりだし、すぐでしゃばるし。あ～あ、一人っ子に憧れるなあ。お兄ちゃん目線でも、妹目線でも楽しめる、愛情がギュッと詰まった絵本。ほのぼのします。



『干し柿』

西村 豊／写真・文
あかね書房

自然の恵みを生かした山梨の特産品「干し柿」の味を知らない人が増えています。渋柿を甘くする方法とは？「子供たちに伝統の味を知ってほしい」という作者の思いから作られた、心のこもった写真絵本です。